

山形のうつつわ —器で見る山形の歴史—



縄文ビーナスの
ビーちゃんです

会期：平成23年9月7日～9月25日
会場：山形空港ビル 2階多目的ルーム

入場無料

① 縄文時代 (約12,000年前～約3,000年前)



縄文土器 高瀬山遺跡(縄文時代前期)



縄文土器 水木田遺跡(縄文時代中期)



縄文土器
宮の前遺跡(縄文時代後期・晩期)



縄文時代のころは、気候があたたかくなり、動物が増え、森にはドングリやクリなどの木の実やキノコ・山菜などが生えました。人々は土器を作り、それらを用いて食べるようになります。なべ料理のはじまりですね。

縄文時代前期は、厚手の土器が主流でした。中期になると大きな形や装飾のついたものが多くなり、後期・晩期には、急須や皿、壺のようないろいろな用途のものが作られるようになります。縄目の紋様のある土器が特徴的なので、縄文時代と呼んでいます。

② 弥生時代 (約3000年前～約1700年前)

弥生時代には、大陸から青銅器や鉄器などの金属器とともに、稲作農耕が伝わりました。稲作文化は弥生時代前期には、日本海側を一気に北上し青森の八戸まで到達しています。しかし、弥生文化は全国一律に発展したものではないことが明らかになっています。山形などの東日本では、稲作が行われた一方で狩猟採集も依然として続き、縄文文化の伝統が強く残っていたと考えられています。

酒田市生石2遺跡から見つかった弥生時代前期の土器には、縄文文化の名残を色濃く残したもの、西日本の文化の影響を受けたもの、そしてこの2つの特徴が混じり合ったものが見られます。



弥生土器
生石2遺跡(弥生時代前期)



弥生土器
百川田遺跡(弥生時代中期)



弥生土器は、縄文土器よりうすい土器です。

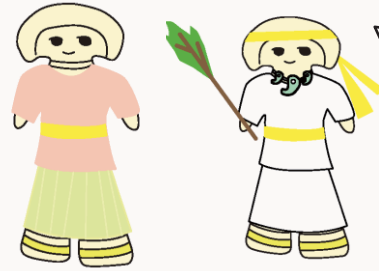
こ ぶん
③ 古墳時代 (約1700年前～約1300年前)



土師器(はじき) 高嶺南遺跡

3世紀後半から7世紀にかけて、各地で地域の首長や有力者を埋葬した墳墓が盛んに造られます。東北地方でも4世紀以降、方墳や前方後円墳、後方墳、円墳など様々な形の古墳が造られるようになります。

この頃の土器は素焼きの土師器が主流でした。土師器は弥生土器の流れをくみ、古墳時代から奈良・平安時代まで使用されていました。西日本では、すでにこの頃からろくろを使い窯で焼いた須恵器が主流になっていました。土師器は須恵器よりも軟質な土器です。



縄文土器・弥生土器・土師器は野焼きで作ります。

な ら へい あん
④ 奈良・平安時代 (約1300年前～約800年前)

山形に出羽郡が設置され、律令制度が始まります。山形も中央の貴族を主とする人々が行う政治に、組み入れられたことを示します。

須恵器(すえき)



貴族



須恵器は「のぼりがま」を使い約1100度で焼いたもので、とてもかたい土器です。

かまくら あづち もも やま
⑤ 鎌倉～安土・桃山時代 (約800年前～約400年)

鎌倉～桃山時代を中世と呼びます。中世は兵と荘園の支配する世界でした。いわゆる武士の世の中です。中世には瀬戸物と呼ばれる陶器が使われ始めます。また、青磁や白磁などの中国製品も輸入されるようになりました。

武士の時代の器だぞ。



陶器(とうき) 亀ヶ崎城跡



え ど
⑥ 江戸時代 (約400年前～約150年前)



磁器(じき) 中山城跡

戦国時代が終わり、比較的落ち着いた時代が長く続きます。有田(佐賀県)で伊万里と呼ばれる磁器が初めて作られ、それが日本各地に伝わります。瀬戸(愛知県)や美濃(岐阜県)、会津(福島県)などでも作られるようになり、国内の磁器生産が盛んになります。この頃山形では、最上義光によって山形城と城下の原型ができあがりました。しかし、最上家改易後は、鳥居氏、堀田氏、水野氏など小藩が置かれました。

今、みんなが使っている器とあまり変わらないね。でも1つ1つ手作りなんだよ。

